

第2回 まちづくり市民協議会会議録

日時：平成25年4月18日 18時45分～

会場：大和公民館2階ホール

出席者 委員 29名（欠席10名）
事務局 8名

1 職員自己紹介

4月1日付の異動者3名及び初参加の職員2名が自己紹介

2 会長あいさつ

私たちが第4期の協議会委員となって2回目の会議。この間、国政では年末に衆議院議員選挙がおこなわれ、安倍総理大臣が誕生した。以来、アベノミクスと言われる経済政策を打ち出し、景気の回復基調も見えるが、今後の動向に注視も必要である。

また、その約1月前には市長選挙も実施されて市川市長が再選され、前の任期中に自らが策定した「総合計画後期基本計画」を推進するための舵取りを市民に負託された。「まちづくり市民協議会」委員としてこの計画に沿ったまちづくりが進められているかどうか確認するとともに、自らも率先してまちづくりへの協力もいただきたい。

本日の議題の、「新年度の予算」は、市川市長が再選されて最初の予算であり、これから進めようとするまちづくりの方向性が示されていると思う。また、「総合計画の進捗」に関連して「市民アンケート調査の結果」が資料として配布されており、こちらでは市民が望むまちづくりの方向性が示されている。

厳しい財政状況の中、これら2つの方向性をすり合わせながら施策の展開が図られることと思われるが、「やさしさあふれる「わ」のまち ひかり」を実現するため、我々もしっかりと地に足のついた議論を進めていきたい。委員の皆さんのご支援、ご協力をお願いしたい。

3 議題

(1) 新年度の主要事業について

・平成25年度当初予算の概要

事務局（財政課）より説明ののち質疑意見等

- 委員：家計簿というが、普通の家庭で自分の給料と親からの援助が同程度ということはないので、現実と違う比較の方法と思う。
- 事務局：親からの援助として説明した国庫補助金や交付税は、本来地方の財源であることを、全国一律の行政サービスを提供するために国が一旦集約し、再配分したもの

であり、分かりやすく説明するためにこうした表現とした。自主財源の比率が低下していることは事実であり、収納率の向上等には引き続き取り組みたい。なお、皆さんに分かりやすく説明する方法は、これで固定ではないので、さらに分かりやすく伝える努力をしたい。

- 委員：地域が元気になる一つとして、地元の皆さんの活動や絆が大切と思うし、難しさも感じる。元気なまち協働推進事業の説明があったが、この事業の実施地域は決まっているのか、希望すればどの地域でも対象となるのか。
- 事務局：この事業は、市民の皆さんの公益的な活動を支援する助成制度の仕組み作りを 25 年度に行う予定である。実際に皆さんに応募していただき助成するのは 26 年度からを予定している。

・まちづくりと市民協議会

事務局より説明ののち質疑意見等
(質疑意見等 なし)

(2) 総合計画の進捗状況について

- ・まちづくり市民アンケートの結果について
- ・光市総合計画行動計画等について

事務局より説明ののち質疑意見等

- 委員：医療に関連して、新しい病院を作ることも計画されているようであるが、救急車を呼んだ時、受け入れ先の病院を探すのに 15 分、20 分経つ。脳梗塞などの重要な病気であれば、1 分 1 秒の時間が重要で、遅れるほど影響が大きい。できれば光市内の病院にすぐに搬送できる、そんな病院を作っていただきたい。(意見)

- 委員：2,000 部配布して回収が 881、回収率が 44.2%で、東部地域は全体の 15.4%、135 部であり、この数で地区の民意を測ることはいかがかと思う。(意見)

「満足している」「改善されている」「住みやすい」など、肯定的な回答数は減少している。なぜ減少しているのか、減少した理由等を突き詰めて分析していただきたい。「地域医療対策」「企業誘致」「バス等交通網の整備」など、軒並み不満足が大きく増えており、しっかり分析していただきたい。

ニーズの分析について、矢印が右上に上がっており、良い方に向かっていると捉えられるような表記と思う。

日常生活の意識において、「障害者（児）を支援したことがありますか」との質問があるが、地域には障害者が住んでおり、「支援してあげたいな」と思える雰囲気を作り出していかなければならない。このままでは 70%以上の人に関わりを持っていない状況

が続く可能性があり、行政においても方法について考えていただきたい。

- 事務局：市民満足度の低下傾向については、市としても軽く受け止めてはならず、分析は進めつつある。原因については、これまで精緻な推測は出来ていない。平成19年度から市民満足度をまちづくりの目標にすることとし、その追跡調査のために調査を開始した。平成20年度にも満足度が大きく低下しており、その後少しずつ向上してきたが、今回、また低下しており真摯に受け止めているが、主たる原因は見つけられていない。

ニーズ度に関しては、表記上、このようになっているが、そうした意図はない。ニーズ度は上がれば上がるほど頑張らなければならないと認識している。例えば、災害対策についても、市民の皆さんと一緒にあって、いざという時に障害者や高齢者がどこにおられるのか、災害時には「声をかけ連れて逃げられる」ように、民生委員さん、自治会、地域の方々と取り組んでいる。

障害者の支援に関する件について、昨年の調査では27.3%で、5ポイント程度減少している。まちづくりへの市民参加意向についても大きく低下しており、こうしたことも含めて見過ごすことができない状況であり、なんとかしなければならぬ。地域においても高齢化が進んだり、近所の人顔が見えない状況も増え、行政としても市民活動の意識の低下について危惧しており、どのように地域に対してお声掛けできるのかなどについても、皆さんのご意見等もお伺いしたい。

- 委員：「まちづくりへの提言」の中に、「優秀な中堅、若手職員による委員会や部署を設置」との提案があるので、考えていただきたい。縦割り組織の中でも意見が出し合えるようにしていただきたい。（意見）

4 その他

今後は、来年3月までにあと3回程度を開催したいと考えており、今回は、「市民対話集会」について等々でご意見をいただきたい。開催については決定次第、ご案内させていただきます。

また、「市民対話集会」は10月～11月頃にかけて、市内数会場（会場は今後決定）で、「防災」をテーマに開催を計画しており、委員の皆様には、いずれかの会場に足をお運びいただきたい。

本日の会議は、内容的に事務局からの説明が多く、時間の都合もあって多くの方からの意見をお伺いすることができなかった。次回からは、意見交換するための時間が十分取れるよう計画したい。

終了 20時35分